

自分だけのかけ算カードを作ろう

単元	かけ算	対象学年	2年
ねらい	スクラッチ 2.0 (3.0) で自分の学習レベルに合ったかけ算カードを作り、繰り返し練習することで、九九をスムーズに唱えられるようにする。		

1 準備するもの

教師：スクラッチ 2.0 (3.0) を使い、図 1、図 2 を保存しておく（児童と作ってもよい）、九九一覧表

児童：タブレット端末または PC（1人1台）



図 1 コスチューム（例）

2 学習のしかた

(1) スクラッチ 2.0 (3.0) を使い、プログラムを組む。

- ・「△回繰り返す」で、問題の出題数を決める。
- ・かけられる数の「△から△までの乱数」の数値を入力し、学習する九九の段を決める。
- ・「△秒言う」の数字を入力し、自分に合った速さのかけ算カードを作る。

(2) かけ算カードで九九の練習をする。

- ・2人1組になり、一人が九九を唱え、ペアの児童が九九一覧表で答え合わせをする。

(3) プログラムを修正する。

- ・出題数や速さのプログラムを修正して、より自分の学習レベルにあったフラッシュカードを作る。



図 2 プログラム（例）

3 学習上の留意点

- ・自分の学習レベルに合わせたプログラムが組めるように、プログラムした数値と正答数をワークシート等に記入させるとよい。
- ・ペアの児童は、必ず九九一覧表で答えを確認し、間違えた問題を相手に伝えるようにする。



図 3 アニメーション画面

4 学習の効果

- ・個々の学力に合わせた問題作りができるため、どの児童もゲーム感覚で楽しく九九を唱えることができた。
- ・前回のプログラムした問題よりも難しい問題が解けるようになりたいと、九九に対する意欲が高まり、休み時間や家庭で九九の練習をする児童が増えた。
- ・タブレット端末の方が教室でも取り組むことができるため、取り組みやすかった。

《九九ーらんひよう》

組 _____ 番 _____ 名前 _____

1のだん		2のだん		3のだん		4のだん		5のだん	
1	×	1	=	1	3	×	1	=	5
1	×	2	=	2	6	×	2	=	10
1	×	3	=	3	9	×	3	=	15
1	×	4	=	4	12	×	4	=	20
1	×	5	=	5	15	×	5	=	25
1	×	6	=	6	18	×	6	=	30
1	×	7	=	7	21	×	7	=	35
1	×	8	=	8	24	×	8	=	40
1	×	9	=	9	27	×	9	=	45
6のだん		7のだん		8のだん		9のだん			
6	×	1	=	6	7	×	1	=	9
6	×	2	=	12	14	×	2	=	18
6	×	3	=	18	21	×	3	=	27
6	×	4	=	24	28	×	4	=	36
6	×	5	=	30	35	×	5	=	45
6	×	6	=	36	42	×	6	=	54
6	×	7	=	42	49	×	7	=	63
6	×	8	=	48	56	×	8	=	72
6	×	9	=	54	63	×	9	=	81